

きれいな水があたりまえ

志學館中等部 一年

後藤

菜々

「また水出てるよ。」

私は、友達が出しっぱなしにしていた水を止めた。この行動ができるようになったのは、私も最近のことだ。

小五までは、蛇口をひねれば、きれいな水が出てくると、水は世界にたくさんあるから大丈夫だ、と思っていた。なので、水を出しっぱなしにしてしまった時は、止めないといけないと思いつつも、頭のどこかでは少しくらいなら大丈夫だろうと思っていた。それがくせになってしまい、いつのまにか水の使い方がいいかげんになってしまったのだ。

しかし、そんな自分を見直すきっかけとなったのが、小六の家庭科の授業だった。それは、SDGsについて学ぶ授業で、十七の目標の中から調べてみたい目標一つを調べてまとめ、という内容だった。私は、どれにしようかと迷わず、目標六の「安全な水とトイレを

世界中に「を選んだ。自分の中でも、最近、水の使い方が良くないと感じていたため、世界の水について調べることで、水に対する自分の考えも変わるのではないかと思ったからだ。

世界には安全な水が手に入らない人が、六億六千三百万人もいる。特に途上国であるサハラ以南のアフリカ諸国に集中しており、人々の多くは池や川、湖、整備されていない井戸から水を汲んでいるそうだ。しかし、その水は泥や細菌によって危険な水となっている。衛生状態が悪いまま水を飲んでしまうことで命を落とす人がたくさんいる。その数は子どもだけで一日に、八百人にもものぼるというのだ。世界の厳しさはこれだけではなかった。生活のために子どもや女性が水汲みに費やす時間は、一日当たりの総計で二億時間に及ぶというのだ。水を汲むために時間を使うことで、学校に通う時間や体力もうばわれてしまう。私達のように友達と遊ぶこともできない

のだ。

私は驚きが隠せなかった。今まで考えたこともない世界の現状をつきつけられた。今まで水を大切にしていなかった自分を恨んだ。世界のどこかで生きるための水を命がけで取りに行っているのに、私はそれを知ろうともせず、水をいいかげんに使っていたのだ。今までの自分がだんだんと恥ずかしくなった。その日から、今までの自分を見直し、調べたことをもとに私にできることを考え、取り組むようになった。

例えば、前より節水に心がけるようになった。お風呂は足し湯を減らすために、家族で続けて入るようにしたり、食器を洗う時は水の量を調整しながら、食器をためて洗ったりなど、家族も協力して節水を行うようになった。他にも、募金活動に参加するようになった。百円を募金しただけで、水をきれいにする浄水剤、二百五十錠に変えることができる。また、一万五千円の募金が井戸の手押しポン

プー基分に変わるのだという。募金によって水をきれいにする手助けができることを知ってから、積極的に取り組むようになった。

今、あたりまえのようにきれいな水を使う私達は、水の大切さを改めて知るべきだと思う。朝起きて顔を洗う、歯をみがく、ご飯を作る、お風呂に入る、など生活の中で水は欠かせない物となっている。しかし、水を通して世界に目を向けてみると、水によって毎日死となり合わせの生活を送っている人もいるのだ。水を恐れる人だっているだろう。そんな人達のためにも、また、自分達の未来のためにも、きれいな水があたりまえのように使えることに感謝しながら、大切に使うべきだと思う。

これから私も、水を大切に作る取り組みを続けていきたいと思う。「きれいな水があたりまえ」が世界中のどこでも通用する未来のために。